

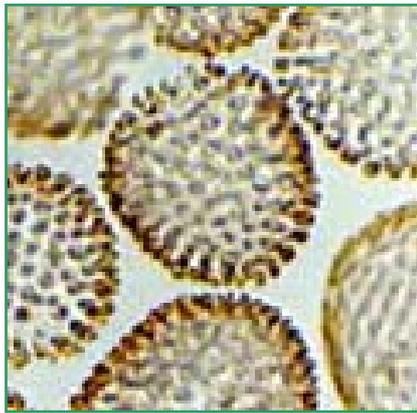
# 瀬田川プランクトン調査結果速報

～ 第37報 ～

滋賀県立衛生環境センター  
琵琶湖水質担当  
平成14年12月9日

## 1. 最も数が多かった種類（優占種）

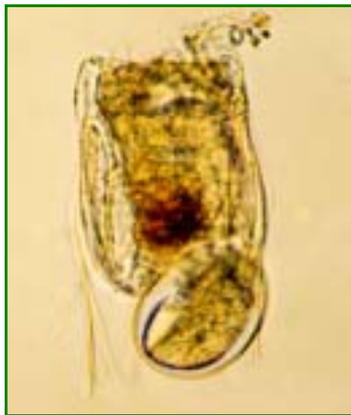
植物プランクトン第1優占種



*Uroglena americana*  
(ウログレナ)  
黄色鞭毛藻類

楕円形の細胞が球状の寒天質の表層に規則正しく配列し、球状の群体を形成する。各細胞は不等長の2本の鞭毛を有する。

動物プランクトン第1優占種



*Polyarthra vulgaris*  
(ハネウデワムシ)  
輪虫類

体は四角く、横に鳥の羽状の付属物が4ヶ所付いている。前部に2本の触角がある。

コメント

植物プランクトンは、引き続き淡水赤潮を形成する黄色鞭毛藻のウログレナが最も多く、占有率は80%以上を占めた。珪藻のキクロテラは前回よりも減少した。動物プランクトンは太陽虫のアカントキスティスがやや減少し、ハネウデワムシが増加した。

## 2. 見つかった主なプランクトンとその数（個体数）

### (1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体 / l)
輪虫類	<i>Polyarthra vulgaris</i>	300

第 2 優 占 種		個体数 (個体 / l)
肉質虫類	<i>Acanthocystis chaetophora</i>	280

\* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

# 瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター

琵琶湖水質担当

平成14年12月9日

第37報

## (2) 植物プランクトン

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(黄鞭) <i>Uroglena americana</i>	6100		
(黄鞭) <i>Dinobryon divergens</i>	39		
(黄鞭) <i>Mallomonas fastigata</i>	1		
(珪) <i>Melosira granulata</i> var. <i>angustissima</i>	13		
(珪) <i>Cyclotella glomerata</i>	200		
(珪) <i>Skeletonema potamos</i>	70		
(珪) <i>Asterionella formosa</i>	20		
(珪) <i>Synedra acus</i>	2		
(珪) <i>Navicula</i> sp.	10		
(珪) <i>Nitzschia acicularis</i>	10		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	80		
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	160		
(緑) <i>Chlamydomonas</i> sp.	40		
(緑) <i>Carteria</i> sp.	10		
(緑) <i>Paulschlzia pseudovolvox</i>	4		
(緑) <i>Hormidium</i> sp.	30		
(緑) <i>Closterium aciculare</i> var. <i>subpronum</i>	4		
(緑) <i>Staurastrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i>	2		
(藍) 藍藻綱	0	0.0	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	6140	90.4	80.6
(珪) 珪藻綱	325	4.8	4.3
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	240	3.5	7.9
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	90	1.3	7.2
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総 細 胞 数	6795	総体積	2.05E+06
種 類 数	18	( $\mu\text{m}^3$ )	

注1) 細胞数の単位は(細胞 / ml)

ただし\*印の種は群体数(群体 / ml)

注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種

数字は各綱ごとの占有率(単位: %)

注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から

試験的に推定した概算値である。